

第106回(昭和58年10月)講演大会講演募集案内 会 告

申込(原稿同時提出)締切り 昭和58年7月4日(月)

注 意

講演概要の図・表・写真の表題ならびにその中の説明は英文とつておりますのでご注意ください。英文以外は訂正のため返送いたします。

本会は第106回講演大会を昭和58年10月4日(火)、5日(水)、6日(木)の3日間秋田大学において開催することになりました。下記により講演募集をいたしますので、奮ってご応募下さるようご案内いたします。

講演希望者は昭和58年7月4日(月)までに申込用紙と講演概要原稿を提出して下さい。

講演概要は英文化(所定のタイプ用紙1枚)し、Trans. ISIJに投稿できるようになっておりますので、多数ご投稿下さるよう併せてご案内申し上げます。

講演ならびに申込要領

1. 講演内容 鉄鋼の学術・技術に直接関連あるオリジナルな発表
2. 講演時間 1講演につき講演15分
3. 講演前刷原稿
 - 1) 原稿は目的、成果、結論が理解しやすいよう簡潔にお書き下さい。
 - 2) 設備技術に関する原稿には計画にあつての基本方針、特色、成果等が必ず盛り込まれているものとする。
 - 3) 商品名・略号等は表題ならびに本文いずれにおいても原則としてご遠慮願います。
 - 4) 謝辞は省略して下さい。
 - 5) 原稿枚数は原則として所定のオフセット用原稿用紙(1600字詰)1枚とします。しかし内容的に止むを得ない場合は2枚まで認めます。(いずれも表、図、写真を含む)ただし編集委員会で査読のうえ1枚にまとめなおし願うことがありますのであらかじめご了承下さい。
 - 6) 原稿は所定の用紙にタイプ印書あるいは黒インキまたは墨を用い手書きとして下さい。
 - 7) 単位は「鉄と鋼」投稿規程に準じます。
 - 8) 図、表、写真中の表題ならびにその中の説明は、英文といたします。
 - 9) 原稿用紙は有償頒布いたしております。
4. 講演申込資格
講演者は本会会員に限ります。非会員の方で講演を希望される方は、所定の入会手続きを済ませたうえ、講演申し込みをして下さい。また共同研究者で非会員の方も入会手続きをされるよう希望いたします。
5. 講演申込制限
 - 1) 講演申し込みは1人3件以内といたします。
 - 2) 連報講演は原則として一講演会あたり3報までとします。ただし連報形式として申込まれてもプログラム編成の都合により連続して講演できない場合がありますのでご了承下さい。
6. 申込方法 本誌会告末に添付されております講演申込用紙ならびに受領通知ハガキに必要事項を記入の上、講演前刷原稿とともに申し込み下さい。
7. 申込用紙の記載について
 - 1) 申込用紙は(A)、(B)、(C)とも太字欄をのぞき楷書でご記入下さい。(申込用紙は、本誌会告末に綴込まれております)
 - 2) プログラム編成上の参考といたしますので、「講演分類欄」に講演内容が、下記講演分類のいずれに該当するか、番号でご記入下さい。

3) 講演者には氏名の前に○印を, また研究者氏名にはローマ字読みを付して下さい。

4) 講演要旨は, 情報管理のための文献検索カードに利用いたしますので講演内容が明確に把握できるようおまとめ下さい。

8. 申込みの受理

下記の申し込みは理由のいかんにかかわらず, 受付はいたしませんので十分ご注意下さい。

- 1) 所定の用紙以外の用紙を用いた申込
- 2) 必要事項が記入されていない申込
- 3) 単なる書簡または葉書による申込ならびに電報, 電話による申込
- 4) 鉛筆書き原稿, 文字が読みづらいもの, 印刷効果上不適当と認められるもの
- 5) 図・表・写真が英文でないもの

9. 講演原稿取り下げ

プログラム決定後の講演原稿の取り下げはお断りいたします

10. 申込締切日 昭和 58 年 7 月 4 日 (月) 17 時着信まで

申込用紙, 講演前刷原稿を同時提出のこと。

**11. 申込先 〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4
経団連会館 3 階(社)日本鉄鋼協会編集課
(電) 03-279-6021 (代)**

~~~~~

**原稿用紙, 合本ファイル有償頒布について**

1. 原稿用紙 (鉄と鋼用本文用紙 50 枚・図面用紙 16 枚綴)  
1 冊 500 円 (〒350 円), 2, 3 冊 (〒700 円)
2. 図面用紙 (鉄と鋼用 50 枚綴)  
1 冊 500 円 (〒350 円), 2, 3 冊 (〒700 円)
3. 講演前刷原稿用紙  
鉄と鋼用 (1 枚 10 円),  
Transactions ISIJ 用 (1 枚 10 円)

郵送頒布の場合は下記のとりの枚数を限定させていただきます。なお 50 枚以上の場合は係までお問合せ下さい。

|                |      |      |      |      |       |           |
|----------------|------|------|------|------|-------|-----------|
|                | 10枚  | 20枚  | 30枚  | 40枚  | 50枚   | 備考        |
| 鉄 と 鋼 用        | 340円 | 550円 | 650円 | 750円 | 1200円 | } 料金は送料込み |
| Transactions 用 | 340円 | 440円 | 650円 | 750円 | 850円  |           |

4. 「鉄と鋼」用合本ファイル  
1 冊 250 円 (送料別)
5. 申込方法 ①原稿用紙の種類, ②枚数, ③送付先明記のうえ, ④料金 (切手でも可) を添えお申し込み下さい。
6. 申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4  
経団連会館 3 階 日本鉄鋼協会庶務課

**講演分類**

| 製 鉄   |               |          |         | 製 鋼  |        |         |         |     |
|-------|---------------|----------|---------|------|--------|---------|---------|-----|
| 1     | 2             | 3        | 4       | 5    | 6      | 7       | 8       |     |
| 原料・燃料 | 製錬            | 耐火物・スラグ  | その他     | 精錬   | 鑄造・凝固  | 耐火物・スラグ | その他     |     |
| 分析    | 加 工 ・ シ ス テ ム |          |         |      |        |         |         |     |
| 9     | 10            | 11       | 12      | 13   | 14     | 15      | 16      | 17  |
| 分析    | 塑性加工          | 表面処理・防食  | 鑄造・粉末冶金 | 溶接   | 熱処理設備  | 計測・制御   | 環境管理・情報 | その他 |
| 材     |               |          |         | 料    |        |         |         |     |
| 18    | 19            | 20       | 21      | 22   | 23     | 24      |         |     |
| 基礎物性  | 熱処理・組織        | 強度・靱性・破壊 | 塑性・加工性  | 高温特性 | 腐食・耐食性 | その他     |         |     |

~~~~~

第2回日向方斉学術振興交付金の希望者募集案内

申請締切日・昭和58年9月9日

本会では住友金属工業株式会社から取締役会長日向方斉氏の功績記念のため寄贈された金五千万円の資金をもつて鉄鋼関係学術振興のため「日向方斉学術振興交付金制度」を設置しております。つきましては下記により受給希望者を募集致しますので、希望者は所定の申請書様式（本協会にご請求下さい。）により応募して下さい。

記

1. 本制度の目的

大学、研究機関等にいる鉄鋼関係の若手研究者が海外で開催される国際研究集会（これに準ずるものを含む）に優れた研究成果を発表するために必要な渡航費等を支弁することを目的とする。

2. 応募資格

1) 国公立の大学、工業高等専門学校等または国公立研究機関（特殊法人を含む）に在職中または在学中の本会会員（正会員、学生会員）で、2) 国際研究集会の開催時の年齢が満40歳未満でありかつ、3) 本会会誌またはその他の学術的刊行物に研究成果の発表をしたことのある者。

3. 対象国際研究集会

昭和59年1月から昭和60年3月までに開催される国際研究集会で、技術分野は本会が春秋に行っている講演大会の範囲の集会。

4. 支弁する交付金の内容

1) 航空運賃（必要最少限のエコノミー料金）、2) 滞在費（集会開催日の前日から終了日の宿泊まで）、3) 参加登録費

5. 申請方法

本会所定の申請書様式により本人が申請する。

“記入内容の概略”

1. 住所、氏名、生年月日、所属職名、正会員・学生会員の別
2. 過去の研究業績（本会会誌またはその他の学術的刊行物への投稿論文）
3. 出席する国際研究集会の名称、主催者、会期、開催地
4. 発表する論文の主な内容
5. 参加資格（座長、招待講演者、一般講演者等の別）
6. 必要経費の概算額
7. 他機関への旅費等の申請の有無

6. 交付件数

59年度については10件以内とする

7. 受給者の義務

1. 出席報告書の提出（原則として会誌「鉄と鋼」に掲載）
2. 発表論文の提出（著作権上可能な限り会誌「Trans. ISIJ」に掲載）

8. 申請書様式請求先及び申請書提出先

〒100 東京都千代田区大手町1丁目9番4号 経団連会館3階
社団法人 日本鉄鋼協会 総務部 庶務課 (Tel. 03-279-6021)

9. 申請書締切日

昭和58年9月9日（金）

10. 交付決定通知

交付決定者には、昭和58年10月11日までに通知し、本会会誌に氏名、発表論文題目、発表する国際研究集会名を会告する。

石原・浅田研究助成金交付候補研究募集要領

申請締切日・昭和 58 年 7 月 11 日

本会では鉄鋼の学術または技術に関する研究を補助育成する目的をもって、「石原・浅田研究助成金制度」を設け昭和 47 年度より助成金を交付しております。については、今年度の助成金を交付すべき候補研究を下記要領により募りますので、交付希望研究者は協会所定の様式をもって応募して下さい。

記

1. 交付対象

鉄鋼の学術または技術に関する研究に従事する本会会員、またはそのグループとし、研究者の年齢は原則として 35 才以下とする。(大学院博士課程学生を含む。)

2. 研究期間・内容

研究期間は助成金の交付を受けてから 2 年間とし、鉄鋼に関する学術あるいは技術への寄与が期待され、かつ着眼点または研究手法が独創的な研究とする。

3. 交付金額

1 件 40 万円, 6 件以内

4. 申請方法

1) 申請者 研究者本人またはグループ代表者

2) 申請方法 協会所定の申請書にその内容を記載し申請するものとする。記載内容の項目は次の通りである。

(1) 研究課題

(2) 研究者氏名, 所属, 他

(3) 研究の目的

(4) 研究の実施計画, 方法

(5) 研究の特色, 独創的な点

(6) 従来の研究経過, 成果または準備状況

(7) 同種研究の国内外における研究状況

(8) その他

3) 申請書請求および送付先

〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階 社団法人日本鉄鋼協会 総務部 庶務課宛

4) 申請締切 昭和 58 年 7 月 11 日

5. 選考

本会研究委員会が選考内規に基づいて選考を行い、理事会で決定する。

6. 交付決定通知

交付が決定した時は研究者名・研究課題を会誌に報告し、同時に研究者またはグループの代表者に通知する。

7. 助成金の交付

本研究の助成金は研究者の所属する機関に経理を委託する。研究者が大学院博士課程の学生の場合には学生の指導教官を通じて所属大学に経理を委託するものとする。

8. 報告

本研究助成金を受けた研究者は、必ずその研究成果について 3000 字程度の報告書を作成し研究期間終了後 1 カ月以内に提出しなければならない。また研究成果を発表する際には本助成金を受けた旨明記しなければならない。

印刷物として発行された場合には、その送付をもつて報告書に代えることができる。

なお、助成金についての経理報告は省略することができる。

9. 石原・浅田研究助成金について

昭和 33 年以来故石原米太郎殿(当時、特殊製鋼株式会社社長、同社は昭和 51 年 9 月に大同製鋼株式会社および日本特殊鋼株式会社の 3 社合併により、大同特殊鋼株式会社となる)の寄贈により石原米太郎研究資金が設定されその果実をもつて研究助成金の交付を行っていましたが、さらに昭和 46 年 4 月株式会社神戸製鋼所から寄贈された浅田長平記念資金の毎年の果実の過半も研究助成金にあてることになりました。そこでこれらを一つにまとめて「石原・浅田研究助成金」と改称して昭和 47 年度から交付しているものです。

第 92・93 回 西山 記念 技術 講座 —板圧延および圧延機の最近の進歩—

主催 日 本 鉄 鋼 協 会

第 92・93 回西山記念技術講座を下記のとおり開催いたしますので多数ご来聴下さいますようお願いいたします。

I 日 時 第 92 回 昭和 58 年 9 月 1 日 (木), 2 日 (金)
東京 農協ホール (千代田区大手町 1-8-3 TEL 03-279-0311)
第 93 回 昭和 58 年 9 月 12 日 (月), 13 日 (火)
大阪 大阪科学技術センター大ホール
(大阪市西区靱本町 1-8-4 TEL 06-443-5321)

II 演題ならびに講師

第 1 日

9:30~12:00	板圧延における板プロフィール及び形状	新日本製鉄(株)生産技術研究所	松本 絃美
13:00~15:00	熱間圧延における平面形状	(株)神戸製鋼所加古川製鉄所	水田 篤男
15:10~17:10	ロールシフト装置を有する圧延機	(株)日立製作所日立工場	西 英俊

第 2 日

9:30~11:00	ロールバンド装置を有する圧延機	日本鋼管(株)技術研究所	鎌田 正誠
11:10~12:10	ロールプロフィール変更装置を有する圧延機	住友金属工業(株)中央技術研究所	益居 健
13:00~14:30	異径・異周速圧延と圧延機	石川島播磨重工業(株)鍛圧機械事業部	塩崎 宏行
14:40~16:10	圧延における摩擦・潤滑及びロール材質	川崎製鉄(株)技術研究所	鎌田 征雄

III 講演内容

1) 板圧延における板プロフィール及び形状 松本 絃美

冷間および熱間板圧延におけるロールの変形, 材料変形の連立解として求められる板プロフィール, 形状に関する過去の内外の研究をレビューし最近の到達点を示す. 具体的な数値計算手法についても筆者らの方法を例にとつて詳述し, 実計算のガイドにすると共に各種のモデル, 方法の相異を示す. さらに理論と直接関係する実験も紹介し, 理論計算上の問題点を議論し, 半実験的な方法を紹介する.

2) 熱間圧延における平面形状 水田 篤男

熱間圧延での歩留向上を目的とした平面形状制御法について紹介する. 分塊ではクロップロス低減のための各種方法, 厚板では MAS 圧延, エッジャー法等, 熱延では AWC, エッジャーショートストローク法, また 連铸スラブの普及に伴うスラブ幅集約に関する大幅圧下法, 大幅出し圧延, スリットローリング法等について解説するとともにそれらの問題点についても言及する. さらに各工程での今後の技術の方向と課題を概括する.

3) ロールシフト装置を有する圧延機 西 英俊

板形状や板クラウン制御上, 圧延機には優れた安定機能と修正機能を要求される. 安定機能とは, 圧延荷重や板幅が変化しても圧延機自からは形状や板クラウンを変化させない機能であり, 修正機能とは圧延機が有する制御手段を用いて形状や板クラウンを変更, 修正する機能である. 本稿では, この二つの機能に優れたロールシフトを有する圧延機の原理, 分類, 特性, 効果や実稼動状況を紹介する.

4) ロールバンド装置を有する圧延機 鎌田 正誠

板圧延の形状, プロフィール制御手段として古くから使用されたものの一つである. 近年・種々の新形式の形状, プロフィール制御方式を有する圧延機が開発されてきているが, これらの多くはロールバンド装置との組み合わせで形状制御が行われているのが実情である. ここでは, 4 段, 6 段圧延機等における垂直方向ロールバンド, 及び FFC に代表される水平方向ロールバンドの制御効果について述べる.

5) ロールプロフィール変更装置を有する圧延機 益居 健

ロール外径形状を熱的, 機械的に変更する装置を対象とする. 熱変形利用に関してはサーマルクラウンの計算方法を含め現在実施されている各種方式を紹介する. 研削利用に関してはインシャルクラウン形状の考え方, インラインロール研削技術等に圧延中のロール摩耗形態を含めて紹介する. 更に非金属圧延での液圧利用ロールや金属圧延での可変クラウンロールの機構と効果を解説するとともにロールプロフィールメータの紹介も行う.

6) 異径・異周速圧延と圧延機 塩崎 宏行

異径・異周速圧延では, 等径・等周速圧延に比べどのような圧延特性が生じるかを, これまでに発表されている圧延理論及び実験結果から述べる. それらの特性のうち実際の圧延に應用された又はされうる効果について述べ, 同時

に異形・異周速であるがための問題点にもふれそれらをいかに解決するかも述べる。

以上の特性を生かしてこれまでに実用化された異径・異周速圧延機の構造と制御についてその概要を述べる。

7) 圧延における摩擦・潤滑及びロール材質 鎌田 征雄

板材の圧延理論に組み入れられている潤滑理論を古典圧延理論と比較して紹介し、エマルジョンの流入機構や流入油膜厚におよぼす圧延条件の影響を述べる。また、圧延油の供給方法や圧延油の進歩を述べるとともに、冷間圧延の潤滑にかかわるヒートストリーク、チャタリング、スリップなどの問題につき発生機構と対策を述べる。最後に、近年大きな研究テーマに挙げられている圧延ロールの使用技術上の問題およびこれを克服すべきロール材質の動向を言及する。

IV 聴講無料 (事前の申込みは必要ありません)

V テキスト代 4,500 円

VI 問合せ先 〒100 千代田区大手町 1-9-4 日本鉄鋼協会編集課

第 3・4 回白石記念講座開催案内

鉄鋼業における耐火物の進歩と展望

主催 日本鉄鋼協会 協賛 耐火物技術協会

第3・4 回白石記念講座を下記により開催いたしますので多数ご来聴下さいませようご案内申し上げます。

白石記念講座は日本鋼管株式会社から同社が昭和 57 年 6 月創立 70 周年を迎え、初代社長故白石元治郎氏を記念して本会へ寄贈されました資金により、本会事業の一つとして白石記念講座を開催しております。

講座内容は、鉄鋼業の進歩に貢献する関連技術の中からテーマを選び、鉄鋼業ならびにそれに関係する方々の知識の向上啓発をはかることを目的として、年 2 回の規模で開催をいたすことになっております。

I 期 日 昭和 58 年 6 月 9 日(木)、10 日(金)

東京 農協ホール(千代田区大手町 1-8-3 TEL 03-279-0311)

昭和 58 年 6 月 28 日(火)、29 日(水)

岡山 岡山衛生会館大ホール(岡山市古京町 1-1-10 TEL 0862-72-3275)

II 演題ならびに講演者

第 1 日

9:30~10:30	鉄鋼業における耐火物の役割	川崎製鉄(株)千葉製鉄所	三枝 誠
10:40~12:10	耐火物技術の構造と変化	新日本製鉄(株)八幡炉材開発室	平橋 敬資
13:00~15:00	耐火物の基礎理論	名古屋工業大学	山口 明良
15:10~16:40	ニューセラミックスの現状と展望	無機材質研究所	田中 廣吉

第 2 日

9:30~11:00	製鉄用耐火物の技術動向	日本鋼管(株)技術研究所	深谷 一夫
11:10~12:40	製鋼炉用耐火物の技術動向	川崎製鉄(株)技術研究所	内村 良治
13:30~15:00	鑄造用耐火物の技術動向	新日本製鉄(株)広畑炉材開発室	池田 順一
15:10~16:40	省エネルギー用耐火物の技術動向	イソライト工業(株)	堀江 鋭二

III 講演内容

1) 鉄鋼業における耐火物の役割 三枝 誠

戦後、日本の鉄鋼技術は目覚ましい発展を遂げた。大型化し、出鉄比を競っていた高炉は、低成長時代を迎えて 10 年を超える長寿命を誇るようになり、一方、製鋼では平炉から上吹転炉を経て、複合吹錬の時代に入った。これらの変遷に、我が国の耐火物技術は、常に深く関わり合いながら、その発展を支え、世界をリードするに至っている。今後、省エネルギー、省資源と、高付加価値化を指向する我が国鉄鋼界にとって、耐火物技術の進展は、不可欠の条件である。

2) 耐火物技術の構造と変化 平橋 敬資

耐火物工業はユーザー先導型産業であるため、鉄鋼をはじめとする高温工業の新プロセスおよび新設備の要請に応じて新技術および新製品が開発されてきた。耐火物技術は、したがって、耐火物製造技術と使用技術に大別され、両者は相互補完関係にある。本講は、両者の接点に立つて、耐火物技術の変革を論述するが、とりわけ、使用技術と密接な関連のある製造技術、原料および製造法に関して具体例をもつて解説する。

3) 耐火物の基礎理論 山口 明良

製造時に耐火物中に生成する液相、使用中における侵入液相、侵入物質との反応による生成液相などは、一般に耐

火物の高温特性に好ましからざる影響を及ぼす。したがって、耐火物の改良や開発のためには、これら液相を制御しその悪影響を減少させることにあるとも言える。この観点から本講演では、耐火物における液相のかかわり方を論旨として、これに関連させながら、耐火物工学への相平衡状態図の応用、耐火物の微構造、炭素と炭化珪素の耐火物における役割などに関して、基礎的な考え方を、種々の耐火物の例をあげて説明する。

4) ニューセラミックスの現状と展望 田中 廣吉

ニューセラミックスは革新技術を支える新しい機能材料、構造材料として注目を浴びている。しかしセラミックスも、その内にひそんでいる特性をうまく引き出して上手に使用しなければ、単なる“焼きもの”あるいは“石ころ”にすぎない。

セラミックスに機能を与えるためにはどんな考え方や手法がとられているか、また脆いセラミックスを構造材料に使用するためにはどうしたら良いか、さらに鉄鋼工業にどんな利用の途があるかなどについて述べる。

5) 製鉄用耐火物の技術動向 深谷 一夫

製鉄用耐火物の高生産性に対処する課題は、石油危機を境に鎮静化したものの、設備の長寿命化、炉前材料の合理化等、耐火物に対して従来以上の改善努力が要請されている。このような情勢を踏まえた高炉耐火物を中心とする製鉄用耐火物の損傷機構、材質改善及び補修技術の最近の研究成果を概説し、加えて今後の課題及び最近注目されている溶銑予備処理用耐火物について言及する。

6) 製鋼用耐火物の技術動向 内村 良治

各種製鋼炉の中から、転炉、電気炉、二次精錬炉をとり上げ、各炉における耐火物の改善経過、今後の課題を製鋼技術の動向と関連づけて論述する。転炉に関しては、複合吹煉化に伴う設備的变化、および連铸比率上昇に伴う操業の変化に対応する耐火物技術として、マグネシアカーボンレンガを中心とする材質の向上、築炉法、炉体管理技術、熱間補修技術等の進歩を紹介する。電気炉、二次精錬炉については、各々の設備に特有の耐火物損傷要因と、それに対する耐火物材質、築炉法、補修法、さらには水冷化など多方面からの改善について述べる。

7) 鑄造用耐火物の技術動向 池田 順一

鑄造は、鋼の品質を決定づける工程である。要求介在物水準の高度化、弱脱酸鋼の連铸化、高速鑄造化、取鋼精錬の増加等の鑄造技術動向および溶鋼と耐火物の反応を抜きにしては鑄造用耐火物を考えることができない。また、CC-DR等プロセスの直行化に伴い窯炉設備も高信頼性が要求される。このような点に視点を当てて、取鋼、流量制御、タンディッシュ、浸漬ノズル、ポーラスプラグ等の耐火物について近年の改善成果を概括し、今後の技術課題を展望する。

8) 省エネルギー用耐火物の技術動向 堀江 鋭二

省エネルギー技術の有力な手段である耐火断熱材料による炉体の断熱強化には耐火物熱れんが、セラミックファイバーあるいはその複合材料など多くの耐火断熱材が使用されている。これら耐火断熱材料の種類、性能の紹介と使用方法、そしてそれに付随する技術的な諸問題について解説し、鉄鋼業における使用実例を均熱炉、加熱炉、熱処理炉および取鋼等についてとりあげる。最後に断熱材が今後とも有効な省エネルギー手段として使用されるために進むべき方向などにつき展望を述べる。

IV 聴講無料 (事前の申し込み不要)

V 資料代 1,000 円

VI 問合せ先 100 千代田区大手町 1-9-4

日本鉄鋼協会編集課 TEL 03-279-6021

お知らせ

ファクシミリ設置のご案内

この度日本鉄鋼協会では、OKI FAX 8500 を導入致しましたのでご案内申し上げます。

記

使用開始年月日 昭和 58 年 4 月 13 日

FAX 専用電話番号 03-245-1355

日本鉄鋼協会・日本金属学会九州支部共催
第 51 回学術講演会及び支部総会

日本鉄鋼協会九州支部主催

第 25 回湯川正夫記念講演会開催のご案内

標記講演会、総会を下記のとおり開催いたしますので、
多数御来聴下さいますようご案内いたします。

日 時 昭和 58 年 6 月 10 日(金) 9:00~17:15

場 所 熊本大学工学部 (熊本市黒髪 2-39-1)

(第 1 会場)

(10:30~11:45) 座長 小野 陽一

(1) 熔融 $\text{MO-SiO}_2\text{-Cr}_2\text{O}_3$ (M=K, Na, Pb)
系の導電率

熊大・工 ○砂山 寛之, 津田 賢資
堀 一夫

熊大・院 松島 秀美(現東洋鋼板)

(2) TiO_2 二成分系融体の構造と物性

九大・院 ○武谷 要, 吉丸 克彦
九大・総理工 森永 健次, 柳ヶ瀬 勉

(3) 水晶石- Al_2O_3 系融体の構造と物性

福工大 ○太田 能生
九大・総理工 森永 健次, 柳ヶ瀬 勉

(4) 高炉系スラグの熱伝導度

九大・院 ○前田 雅之
九大・工 岸本 誠, 森 克己
川合 保治

(5) TMS 誘導体化法による鉛珪酸塩の結晶化過程

九工大・院 ○大楠 弘, 竹下 信治
九工大・工 溝口 数一, 杉之原幸夫

(14:15~15:30) 座長 迎 静雄

(5) 小倉 3 焼結排熱回収について

住金・小倉 ○佐藤 和明, 村井 達典
" 松本 広美
" 大阪本社 畠山 恵存, 二口 隆
" 中研 加藤 和正

(6) 溶銹へのアルミ添加による石灰吹込み
脱硫反応の促進

熊大・工 ○満尾 利晴
新日鉄・堺 庄司 武志, 八太 好弘
" 生産研 森 久
日新製鋼 甲斐 幹

(7) 酸素浸漬吹による溶銹の脱珪

新日鉄・生産研 ○大貫 一雄, 山本 里見
" 有馬 良土, 中村 泰

(8) 低 FeO 焼結鉄の還元における構成
鉄物の挙動

九大・工 ○前田 敬之, 小野 陽一

(9) 高炉水砕スラグの有効利用に関する研究

(ウォールタイム素地への応用)

熊大・工 ○砂山 寛之, 津田 賢資
" 堀 一夫
熊大・院 松添 久宣(現:京セラ)

(15:45) ~17:15) 座長 杉之原幸夫

(10) MgO-FeO 系固溶体の活量測定

熊大・院 ○佐々 豊
熊大・工 河原 正泰
熊工大 白根 義則

(11) 二相ステンレス鋼中の水素透過

長崎大・工 ○高尾 慶蔵, 坂本 芳一
" 岩永五十四

(12) 硫酸塩浴からの Ni-Cd 合金の電析

九大・工 ○秋山 徹也, 福島 久哲
" 東 敬

(13) クロム系白鉄の耐サンドエロージョン特性

九大・研究生 ○金 遠智
九大・総理工 沢本 章, 大城 佳作
松田 公扶

(14) Zn-Co 合金電気メッキ層の電気化学的特性

九大・院 ○有村 光史
九大・学生 豊原 英敏(現日本真空技術)
九大・工 林 安德

(15) Zn-Al 合金の耐食性について

長崎大・工 ○内山 休男, 古賀 秀人
" 学生 河西 洋一, 川下 浩

12:30~12:50 支部総会

12:50~14:10 湯川記念講演会

演題 「産業用ロボットの現状と将来について」
講師 (株)安川電機製作所 常務取締役
高津 章君

(第 2 会場)

(9:00~10:15) 座長 千葉 昂

(1) 亜鉛の $\{112\}$ $\langle\bar{1}123\rangle$ すべりにおける
除荷重硬化

熊大・院 ○原田 浩久
熊大・工 川崎 獺雄, 頓田 英機

(2) 亜鉛の $\{1.22\}$ $\langle\bar{1}123\rangle$ すべりの剪断方位依存性

熊大・院 ○岩城 由尚
熊大・工 川崎 獺雄, 頓田 英機

(3) 変形した Al-Li 合金中の転位配列

福教大 ○古川 稔
九大・工 松井 昭彦, 美浦 康宏
根本 実

(4) Cu-Ni-Si 析出硬化型合金の加工による
電気抵抗変化

熊大・院 ○山下 政英
熊大・工 川崎 獺雄, 頓田 英機

(5) タングステン線の低温変形

九工大 ○八尋 寛司, 田上 耕司
" 松田日出彦
日本タングステン 森 寿敏

一休 憩一

(10:30~14:45) 座長 北島 貞吉

(6) 爆接 SUS 304 鋼/Al 系複合材料の熱的
安定性と機械的性質

- 熊大・院 ○外本 和幸
熊大・学生 千年原 望(現日立造船)
熊大・工 千葉 昂, 戸坂 淳一
- (7) Mo による TiC の固溶体硬化
九大・院 ○松原 礼志,
白石 順一(現住友電工)
九大・総理工 栗下 裕明, 吉永日出男
- (8) メルトバック法による Al-CuAl₂ 共晶合金の
ラメラ組織制御
九大・院 ○三村 敏夫
九大・総理工 後藤 正治, 吉永日出男
- (9) ツイン・ジェット電解研摩装置の試作と応用
九大・工 ○佐野 毅, 西原 良一
美浦 康宏, 根本 実
応用技術 四本 晴夫
- (10) アルミニウムおよび鉄単結晶の応力緩和試験
九工大 ○田上 耕司
〃 山下 幸一(現古河電工)
〃 松田日出彦
- (14:15~15:30) 座長 徳永 洋一
- (11) 溶接熱影響部の切欠靱性に及ぼす微量元素の影響
九工大 ○川西 寛明, 西尾 一政
〃 加藤 光昭, 迎 静雄
- (12) SUS 430 薄板の加工性に及ぼす成分
(Al, C, N) の影響
新日鉄・生産研 ○原 勢二郎, 河面弥吉郎
〃 上田 全紀, 竹下 哲郎
〃 高橋 延幸, 中島 浩衛
- (13) SUS 430 薄板の加工性に及ぼす成分
(Mn, Si) の影響
新日鉄・生産研 ○原 勢二郎, 河面弥吉郎
〃 上田 全紀, 竹下 哲郎
〃 高橋 延幸, 中島 浩衛
- (14) Al-Ag 合金の P-L 効果について
九大・院 ○石橋 利之
- 九大・学生 中井 裕也(現日立製作所)
九大・工 小野寺龍夫, 恵良 秀則
〃 清水 峯男
- (15) 低 Mn Dual Phase 鋼板の低温時効性
(BH 性等) について
九大・工 ○恵良 秀則, 清水 峯男
九大・院 山口 徹(現小松製作所)
〃 鄭 鎮 煥
- (15:45~17:15) 座長 吉永日出男
- (16) (α' + δ) 二相ステンレス鋼の結晶粒微細化
九大・院 ○瀬尾 武久
九大・工 高木 節雄, 徳永 洋一
- (17) Ni/Ni₃Al および Ni₃Al/Mo
異相界面構造の解析
九大・工 ○屋久 四男, 佐野 毅
美浦 康宏, 根本 実
- (18) クラスタ形成におよぼす構成要素間の
相互作用の影響についての計算機実験
鹿兒島工博 ○池田 英幸
九大・工 松田日出彦
- (19) Fe₈₅(Al_xSi_{3-x})₁₅ 規則合金の相状態と
相変態過程
九大・院 ○中川 雅晴
〃 園部 秋夫(現川崎製鉄)
九大・総理工 松村 晶, 沖 憲典
江口 鉄男
- (20) FIM による Cu-Pt 合金の規則構造の観察
九大・院 ○向井 厚雄
〃 川原 伸章(現日本電装)
九大・総理工 桑野 範之, 沖 憲典
江口 鉄男
- (21) 電子線照射下での Fe-7.5at%Mo 合金の相変態
九大・院 ○西村 宣彦
九大・工 仲井 清真, 木下 智見
北島 真吉

(注) 学術講演は、1件につき講演 12 分、討論 3 分でお願いします。

なお、講演会終了後、懇親会(会費無料)を予定しておりますので参加下さい。

東北支部主催
湯川記念講演会開催案内

下記により湯川記念講演会を開催いたしますので、多数ご参加下さるようご案内申し上げます。

日時 昭和58年6月21日(火) 13:30~16:30

会場 東北大学工学部金属系三学科大講義室
内容

- 13:30~13:35 挨拶
13:35~14:55 最近の製鋼技術の進歩と今後の展望
新日鉄室蘭製鉄所長 山本全作君
15:05~16:25 オーステナイトからの拡散変態の
速度論 京大工教授 田村今男君

東海支部
特別講演会案内

日本鉄鋼協会・日本金属学会支部共催

下記により昭和58年度第2回特別講演会を開催致しますので多数御参加下さいますよう御案内申し上げます。(入場無料)

記

日時 昭和58年7月7日(木) 13:30~14:30

場所 名古屋大学工学部5号館2階521番講義室
(〒464 名古屋市千種区不老町
Tel. (052) 781-5111)

題目 「分析電頭の鉄鋼材料研究への応用」

講師 川崎製鉄株式会社技術研究所水島研究部
今中拓一君

〒464 名古屋市千種区不老町
名古屋大学工学部金属・鉄鋼工学教室内
日本鉄鋼協会東海支部
Tel. (052) 781-5111 内線 3372

東海支部
若手冶金エンジニア研究会のお知らせ

日本鉄鋼協会・日本金属学会支部共催

日時 昭和58年7月15日(金) 12:30~16日(土) 16:00

場所 愛知レクリエーションセンター「三河ハイッ」
(〒444-01 愛知県額田郡幸田町遠望峰,
電話 05646-2-1751)

定員 25名(必ず事前にお申込み下さい)

(1) 講演:「日本人の方法でしか開発できないわが
国の鉄鋼工学」

名古屋大学名誉教授 佐野 幸吉

(2) 討論:主題「鉄と非鉄の製錬の接点をさぐる」

参加費:8,000円(宿泊,食事代を含む)

問合・申込先:〒440 豊橋市天伯町字雲雀ヶ丘 1-1

豊橋技術科学大学 生産システム工学系
川上正博(電話 0532-47-0111,
内線 621)

第27回材料研究連合講演会の開催について

共催 日本学術会議材料研究連絡委員会, 日本鉄鋼協会, ほか

日時 昭和58年9月28日(水), 29日(木)

会場 日本学術会議(港区六本木 7-22-34)

講演部門

I. 微視的構造, II. 材料の力学的性質と挙動, III. 材料の物理的性質, IV. 材料の化学的性質, V. 構造物強度, VI. 材料の製造・加工と処理, VII. その他

講演申込締切 7月15日(金)

講演前刷締切 8月20日(土)

問合講演申込先, 前刷原稿提出先

101 東京都千代田区神田駿河台 1-5

社団法人 日本化学会材料研究連合講演会係
(電話 (03) 292-6161)

英文論文集提出締切 8月31日(水)

英文論文提出先 606 京都市左京区吉田泉殿町 1-101

日本材料学会材料研究連合講演会

英文論文集編集委員会(電話 (075) 761-5321)

金属学会セミナー 金属材料と極微量分析

—その現状, 問題点と展望—開催のお知らせ

主催: 日本金属学会 協賛: 日本鉄鋼協会, ほか

日時 昭和58年7月20日(水), 21日(木)

10:00~16:30

場所 科学技術館6階第4会議室
(東京都千代田区北の丸公園 2-1
電話 03-212-8471)

定員 100名

聴講料(テキスト代含む) 会員 18,000円

問合・申込先 980 仙台市荒巻字青葉

日本金属学会 電話 0222-23-3685(代)

総論: 極微量分析手法の評価と位置づけ

東大理 原口 紘丞

金属材料の極微量分析: 現状と今後の期待

金材研 大河内春乃

鉄鋼のニーズ: 特に材質特性から

日本鋼管技研 松藤 和雄

鉄鋼のニーズ: 特に製錬から

川崎製鉄技研 江見 俊彦

非鉄金属のニーズ

日本鋳業中研 中村 靖

鉄鋼における極微量分析: 現状と方向

新日鉄基礎研 佐伯 正夫

電子材料のニーズ

住友電工 島 博志

セラミックスのニーズ

東芝総研 今川 宏

超伝導体材料のニーズ

東北大金研 永田 明彦

高純度金属のニーズ

東北大工 井垣 謙三

一色 実

分析機器の極微量分析への対応

日立製作那河 保田 和雄

第15回 Chemical Abstracts 利用法 (効果的なマニユアル調査) 講習会**第12回 Chemical Abstracts Search オンラインによる化合物検索法講習会****第2回 Chemical Abstracts 化合物命名法講習会の開催について**

主催：化学情報協会 共催：日本鉄鋼協会、ほか

日時：昭和58年6月28日(火) 10:00~17:00

CA 利用法講習会

6月29日(水) 10:00~16:00

CAS 化合物検索法講習会

6月30日(木) } 10:00~16:00

7月1日(金) }

CA 化合物命名法講習会

場所：学士会館東大分館(東大赤門前 電話 03-814-5541)

定員：各25名

参加費：一般 利用法 21,000円, 検索法 15,000円, 命名法 15,000円

会員 利用法 14,000円, 検索法 9000円, 命名法 12,000円

問合・申込先：化学情報協会講習会受付係

(〒113 東京都文京区弥生 2-4-16

学会センタービル 電話 03-816-3462)

第1回材料の衝撃問題シンポジウム講演募集

主催：日本材料学会 協賛：日本鉄鋼協会、ほか

期日 昭和58年12月8日(木), 9日(金)

会場 京大会館 京都市左京区吉田河原町15-19

Tel. 075-751-8311

講演申込締切 9月10日(土)

前刷原稿締切 10月15日(土) 前刷原稿用紙(1480字詰)4枚以内

問合・申込先 〒606 京都市左京区吉田泉殿町1-101

日本材料学会 材料の衝撃問題シンポジウム係 (Tel. 075-761-5321)

参加費 無料

セミナー「光応用の計測とセンサ」の開催について

主催：日本自動制御協会 協賛：日本鉄鋼協会、ほか

期日会場：東京 昭和58年7月14日(木), 15日(金)

9:30~16:50 家の光会館(東京都新宿区市谷船河原町11)

大阪 7月21日(木), 22日(金) 9:30~16:50

大阪マーチャングランドダイズマートビル19階(大阪市東区京橋1-7)

定員：東京会場 100名 大阪会場 140名

参加料：会員(協賛学協会員含む) 25,000円

学生 12,000円, 非会員 35,000円

申込・問合せ先：〒606 京都市左京区吉田河原町14

近畿地方発明センタービル

日本自動制御協会 TEL (075) 751-6413

第24回高圧討論会の講演募集について

日時 昭和58年11月10日(木)~12日(土)

会場 電気ビル(福岡市中央区渡辺通2丁目1番8号)

講演募集分野 高圧力に関する次のような分野を包含する。

- 1) 高圧装置・技術, 2) 固体物性, 3) 固体反応,
- 4) 流体物性, 5) 流体反応, 6) 衝撃圧(討論を含め1件20分の予定)

講演申込締切 7月30日(土)(必着)

講演要旨原稿締切 9月10日(土)

参加登録予約締切 10月15日(土)

参加費 一般 4,000円, 学生 3,000円

申込先 814-01 福岡市城南区七隈8丁目19の1

福岡大学理学部化学教室 田中研究室内

第24回高圧討論会準備委員会

電話 (092) 871-6631 内線 2634

セミナー「微小領域の物質情報をさぐる」—マイクロビームアナリシスの現状と将来—開催のお知らせ

主催 (社)日本分光学会 協賛 (社)日本鉄鋼協会ほか

期日 昭和58年8月20日(土)~23日(火)—3泊4日—

場所 昭和薬科大学諏訪校舎

(長野県茅野市白樺湖, 電話 026668-2209)

参加費宿泊費

会員* 参加費 28,000円+宿泊費 27,000円=55,000円

非会員参加費 38,000円+宿泊費 27,000円=65,000円

* 協賛学協会員を含む。

定員：50名(先着順)

参加申込締切日：昭和58年7月18日(月)

申込および問合せ先：

〒101 東京都千代田区神田淡路町1-13

クリーンビル301 社団法人 日本分光学会

(電話 03-253-2747)

第23回真空技術夏季大学のご案内

主催：日本真空協会 協賛：日本鉄鋼協会、ほか

日時 昭和58年8月24日(水) 13時より 27日

(土) 12時半まで(3泊4日)

場所 場所愛知県三河三谷ホテル「四海波」

Tel. (05336) 8-2141

(東海道新幹線豊橋, または東海道線三河三谷下車)

会費：一般 47,000円, 協賛学協会員 42,500円, 真空協会個人会員 35,500円(宿泊費, 食費, テキスト代を含む)

定員：150名

申込締切：7月20日

問合・申込先：日本真空協会

〒105 東京都港区芝公園 3-5-8

機械振興会館512号室 電話 (03) 431-4395

(直通) 431-8211 内線 398

第 10 回 IMEKO 質量・力計測会議開催のお知らせ

主催：国際計測連合第 3 技術委員会 IMEKO TC-3,
計測自動制御学会 協賛：日本鉄鋼協会, ほか
期日・会場 昭和59年 9月11日(火)～14日(金)
神戸国際会議場 (予定)
アブストラクト締切：昭和58年10月31日
Full Paper 締切：昭和59年 4月30日
参加費 (予定) 40,000 円

第 21 回高温強度シンポジウム講演募集

主催：日本材料学会 協賛：日本鉄鋼協会, ほか
期日 昭和58年11月29日(火), 30日(水)
会場 学士会館 〒101 東京都千代田区神田錦町
3-28 (03) 292-5931
講演申込締切：8月20日(土) 必着
前刷原稿締切：10月20日(木) 必着
問合・申込先
〒606 京都市左京区吉田泉殿町 1 の101
日本材料学会 高温強度シンポジウム係
Tel. (075) 761-5321

第 1 回塑性加工国際会議 (The 1st International Conference on Technology of Plasticity) 開催ならびに講演募集について

共催：日本塑性加工学会, 精機学会 協賛：日本鉄鋼協会, ほか
開催期日：昭和59年 9月3日(月)～9月7日(金)
開催場所：センチュリー・ハイアットホテル
(東京・新宿)
申込締切：昭和 58 年 8 月 31 日 (水)
問合申込先：日本塑性加工学会 〒106 東京都港区六本
木 5-2-5 トリカツビル
電話 (03) 402-0849

Annual Conference of the French Technical Association for the Steel Industry

1. 主催 Association Technique de la Sidérurgie Française
2. 期日 1983 年 12月7日～8日
3. 場所 Paris, France
4. テーマ Hot metal and steel production, continuous casting and rolling
5. 詳細は直接下記宛お問い合わせ下さい。
Association Technique de la Sidérurgie Française
5 bis rue de Madrid
BP 707 08
75367 Paris cedex 08
Tel: (1) 522 83 00
Telex: 650392 Sisyn di Paris
Télécopieur: 522 50 35

1st International Conference on Surface Conditioning and Detection of Surface Defects

1. 主催 MEFOS and JERNKONTORET
2. 期日 1984 年 6月14日～15日
3. 場所 Luleå, Sweden
4. テーマ
 - 1) equipment and technology for detection of surface defects on cold and hot material
 - 2) equipment and technology for cold and hot conditioning
 - 3) theory and development of grinding wheels
 - 4) theory and state of the art for grinding
 - 5) economy and energy saving
 - 6) new technology: e.g. automated or hot conditioning
 7. finished product demands on conditioning, such as surface roughness
5. Abstract
 - 1) 語数: 200～300 語 (英語)
 - 2) 締切日: 1983 年 11 月 1 日
6. 詳細は直接下記宛お問い合わせ下さい。
SCANCONDITIONING '84
c/o MEFOS
Box 812
S-951 28 LULEÅ (Sweden)
Telephone: +46 920 55640
Telex: 80482 MEFOS S

13th Biennial Congress of the IDDRG

1. 主催 The Australian Sheet Forming Group
2. 期日 1984 年 2月20日～28日
3. 場所 Melbourne, Australia
4. テーマ Efficiency in Sheet Metal Forming
 - 1) Tool Design
 - 2) Materials and Lubricants
 - 3) Testing
 - 4) Operation of Large and Small Press Shops
5. Abstract
 - 1) 語数: 200 語程度 (英語)
 - 2) 締切日: 1983年 7月1日
6. 詳細は直接下記宛お問い合わせ下さい。
Dr. R. M. Hobbs,
Secretary, IDDRG Biennial Congress,
Private Bag 1, Hastings, Victoria
3195
AUSTRALIA.
Telex AA 30408
Phone (03) 560 7066